

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 研究科の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「情報コミュニケーション研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(226頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。 ② 大学院学則別表4に「人材養成その他の教育研究上の目的」を研究科・専攻ごとに定めている。				
(2) 研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか					
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「情報コミュニケーション研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、研究科委員会で承認しており、本研究科教職員に周知されている。 ② 大学院学則別表4「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。				
(3) 研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①「教育・研究に関する年度計画書」は、毎年度、「研究科執行部会議」が責任主体となって見直しを行っている。2015年度は5月22日開催の研究科委員会で承認され、決定した。 ② 大学院学則別表4「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更する際には、研究科委員会の審議を経て、大学院委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。2015年度は執行部による検討の結果、改正していない。				

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 研究科として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「情報コミュニケーション研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(227頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「情報コミュニケーション研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(227頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ③ 「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を研究科委員会で承認することにより、本研究科教職員で共有している。				
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 専任教員の任用・昇格に関して、「情報コミュニケーション研究科博士前期課程「教員任用規程」適用に関する申し合わせ」及び「情報コミュニケーション研究科博士後期課程「教員任用規程」適用に関する申し合わせ」に基づき大学院の授業を担当する条件を定め、明文化している。 また、特任教員、客員教員及び兼任教員は、それぞれ大学で定めた「明治大学特任教員任用基準」「明治大学客員教員任用基準」「明治大学兼任講師任用基準」を踏まえて、研究科で定めた「情報コミュニケーション研究科委員会において審議する教員任用人事の取扱内規」により明文化している。 ② 任用時の求める能力は情報コミュニケーション研究科人事審査委員会内規「第5条」に規定している。				
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	本研究科の運営組織として、所属教員のみによる研究科委員会が設置されている。研究科委員会委員の互選により選出された研究科長、専攻主任、大学院委員の3名を執行部と位置付け、また、所属教員の役割を分担し、委員会も設置しており、定期的に執行部および委員会を開催することにより、情報コミュニケーション研究科を運営している。研究科の教育研究、授業編成、教員人事等に関する重要案件は全て研究科委員会において審議されており、その独立性の確保及び独自運営について保証されている。				
(2) 研究科の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか					
教員の編制方針に沿った教員組織の整備					
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】 ※現在数とは、2016年5月1日現在の数値です。 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)、専攻別に説明する。	以下のとおり基準を充足している。 <博士前期課程> 大学院設置基準上の必要教員数 8名 専任教員数 26名(うち研究指導教員は18名) <博士後期課程> 大学院設置基準上の必要教員数 8名 専任教員数 11名(うち研究指導教員は11名)				

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	以下のとおり基準を充足している。 <博士前期課程> 研究指導教員における必要教授数 4名 専任教授数 13名 <博士後期課程> 研究指導教員における必要教授数 4名 専任教授数 9名					
b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	必修科目は100%専任教員が担当しており、選択科目において兼任講師による多様な講義が行われている。なお、専兼比率は約67%である。また、社会・人間・文化・自然の4つの専門領域に教員がバランスよく配置され、研究指導にあたっている。					
	情報コミュニケーション学部所属の特任教員が1名、大学院講義を3科目担当している。 研究科所属となる特任教員及び客員教員は任用していない。					
教員組織を検証する仕組みの整備						
a ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	教員組織の検証プロセスについて、研究科執行部会では、毎年度6月に「教育・研究に関する年度計画書」において教員・教育組織に関する長中期計画を策定している。年度計画書の策定にあたっては、毎年度実施している自己点検・評価結果を参考としながら教員・教育組織を検証し、その編制方針の見直しを行っており、また、検証にあたっては、補充・増員すべき教員の主要科目及び資格を確認し、これらを踏まえてから、研究科委員会で承認を得ている。また、例年9月の研究科委員会にて2015年度授業計画の執行部(案)を審議することにより教員組織の検証が図られている。					
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	教員任用の基準等について、「情報コミュニケーション研究科博士前期課程「教員任用規程」適用に関する申し合わせ」及び「同博士後期課程「教員任用規程」適用に関する申し合わせ」において、大学院の授業を担当する条件を定めている。また、特任教員、客員教員および兼任教員は、大学で定める諸規程を踏まえ、本研究科で定めた「情報コミュニケーション研究科委員会において審議する教員任用人事の取扱内規」により明文化している。 研究科担当教員の資格審査においては、手続きとして研究科委員会を経て、大学院委員会において承認されており、適切性・透明性が維持されている。特任教員、客員教員及び兼任教員は、研究科委員会内に人事審査委員会を設置し、「情報コミュニケーション研究科人事審査委員会内規」に基づき審査を行っている。審査においては、大学院担当にふさわしい研究・教育上の業績があるか、また、研究指導を行うに十分な人間的資質があるか否かについて厳密な審査が行われている。そして、人事審査委員会の結果報告をもって、研究科委員会において審議・承認を行っている。					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	① 教育活動の業績評価について、専任教員については、情報コミュニケーション学部と共同し「教員活動成果報告書」を通じて、教員の研究・教育活動を公開する機会を設けている。 ② 研究活動の業績評価について、研究者情報データベースを通じて、各教員の研究活動、研究業績等は公開されている。 ③ 総合的な業績評価として、学部と連動した教育研究活動報告書の作成、専任教員データベースの公表を行っている。	左記の活動により、教育研究活動が受験生に周知されている。		今後も継続していく。また、進学相談会時等でも周知を図っていく。		
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価する。 【600～800字】	○FD懇話会 2015年度：春学期 2回開催 1. 博士前期課程研究指導担当教員向け： 博士前期課程2年生から提出された「修士論文作成計画書」及び「研究計画中間報告書」に基づき、博士前期課程2年生を研究指導するすべての教員が学生指導上の問題点等、教員相互の意見交換を行い、質の高い学位論文の指導に向け教員の資質向上に努めている。 この懇話会の後に開催される、院生による修士論文中間発表会に教員が参加することで多角的な教育を実践している。 2. 博士後期課程研究指導担当教員向け： 博士後期課程2年生から提出された「博士論文作成計画書」及び3年生から提出された「博士論文執筆計画書」に基づき、博士後期課程2・3年生を研究指導するすべての教員が学生指導上の問題点等、教員相互の意見交換を行い、質の高い学位論文の指導に向け教員の資質向上に努めている。 さらに、当該年度中に学位請求を行う予定の学生は「研究計画作成計画最終報告書」を提出する。この場合も同様に、すべての研究指導教員が意見交換及び情報共有を行い、同年度の春学期中に開催される博士学位請求論文事前報告会に教員が参加し、博士学位請求論文においても多角的な指導を実践している。					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか					
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその内容も明記する。	① 教育目標として大学院学則別表4に「人材養成その他教育研究上の目的」を定めている。 ② 「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果」と「その達成のための諸要件」を明確にした「学位授与方針」を、博士前期・後期課程別々に目指すべき人材像、具体的到達目標として研究科委員会において定めている。				
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか					
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその内容も明記する。	学位授与方針に示した修得すべき学習成果を達成するために、教育内容や教育方法の基本的考え方を明らかにした情報コミュニケーション研究科の「教育課程の編成・実施方針」を、博士前期・後期課程別々に研究科委員会において定めている。				
(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員（教職員及び学生等）に周知され, 社会に公表されているか					
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については、大学院便覧（113頁）で公開している。 ② 学生についても、在学生に配付する大学院便覧（113頁）、履修の手引き（6頁）において明示し、毎年公表されている。 ③ 社会一般への公表は、研究科ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。また、大学院学生募集要項にも掲載し、大学院進学を考えている学生に対しても周知している。				
(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	2012年度に新たに将来に関わる広範な課題について検討することを目的とした「将来構想委員会」を設置し、この委員会において教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方法の適切性についても毎年検討してきている。 なお、方針を変更することを決定した際には、同委員会の検討後、「研究科委員会」において審議し、承認することとなる。博士前期課程・後期課程をそれぞれ対象とした、FD談話会を開催し、指導教員全員で院生の問題点等の情報を共有している。2015年度の検討では、変更の必要性はないと判断された。				

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか							
必要な授業科目の開設状況							
a	◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)、専攻別に説明する。	<p><博士前期課程> ① 社会、人間、文化、自然の4つの専門領域研究を有機的に結合した授業科目を設置。 ③ 総開講科目数は169科目 内訳：演習科目97科目、講義科目72科目。総授業数に占める比率：講義科目42.6%、演習科目57.4%</p> <p><博士後期課程> ③ 総開講科目数は16科目 内訳：演習科目8科目、講義科目8科目 講義科目と演習科目の比率はそれぞれ50%であり、総授業数に占める講義科目と演習科目の比率もそれぞれ50%である。 「学際」研究を具体化するために、社会、人間、文化、自然の4つの専門領域研究を有機的に結合した「情報コミュニケーション学学際研究科目」を設置している。</p>					
b	◎コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。【修士・博士】 【200～400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)、専攻別に説明する。	<p><博士前期課程> 博士前期課程の修了に必要な単位数は32単位(コースワーク24単位(うち必修4単位)、リサーチワーク8単位(必修8単位)) 修了に必要な単位数に占める比率は、コースワーク75%、リサーチワーク25%である。 なお、学際性を重視しているため、博士前期課程1年の入学時にかなりのコースワークの負荷が発生し、リサーチワークに達するのに遅れる傾向がある。</p> <p><博士後期課程> 博士後期課程の修了に必要な単位数は24単位であり、コースワークとリサーチワークそれぞれで12単位(すべて必修)とバランスが取れている。</p>		学部からの進学者は少なく、他学部・他大からの進学者及び留学生が院生の多くを占めるために、学際的な学びを行うコースワークの負荷が高い。いわば学部で学んでいるべき内容までも大学院で詰め込んで学ぶ事態になっている。		コースワークの達成は必要なことであり、学生の努力を期待するしかない。従って、アルバイトなどに時間を必要以上にかかることなく、勉学そして研究に精励するように指導しているが、それを徹底していくことで、コースワークの勉学効率をあげる。	研究科開設後10年を迎えるにあたって、卒業生のキャリアアップ等の実績を学部学生に伝えることにより、優秀な学部生の進学者を確保していく。
順次性のある授業科目の体系的配置(履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など)							
c	●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】	CPに基づいて、科目を社会・人間・文化・自然の4つのカテゴリーに分けて配置し、研究科ホームページ、大学院ガイドブックでカリキュラム体系図や履修モデルを公開している。これらのカテゴリーは学際研究を進める上での目安となる。 学生はいずれかのカテゴリーに拠点を置き、自らの研究テーマに必要な知識や研究方法を身に付けてもらう。そしてさらにカテゴリーを越えて、それぞれ興味と問題関心を抱くテーマについて自由に履修することにより、異なる視点から自分の研究について見直すこともできる。					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性					
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育課程の適切性の検証については、「将来構想委員会」で検討している。この委員会は議題が発生する都度開催している。 ② 2015年5月に開催し、カリキュラムについて検討を行った。具体的には、学部のコース制が見直されたことに伴う、研究科の分野の区分けを再検討するかであったが、学部から進学する学生も少ない現状において、また、研究科の独自性を保つうえでも現状のままで行くこととした。		カリキュラムの構成や人員配置に関して、改善意見が集まっている。とくに、分野によって、定年退職者が多く発生しているのので、後任補充するか、分野編成を変更するかの判断が必要になってきている。		2017年からの総合的教育改革にもとづき学部のカリキュラム改定が予定されている。それと連動した対応をとるべく、さっそく将来構想検討委員会で検討を始める。
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか					
特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など）					
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）、専攻別に説明する。	○博士後期課程の必修科目「情報コミュニケーション学学際研究」の設置 博士後期課程の学生が主体となって、春学期は学生各人の専門分野に関する研究報告をもとに議論を展開し、秋学期は他の大学・研究機関から外部招へい講師（研究者）を招き、カンファレンス形式を取り入れた授業を展開している。本講義は教員の出席のもと行われ、この「学際研究」の成果は、博士後期課程の学生が編集する論集『情報コミュニケーション学学際研究』として年1回刊行している。ただ現状の冊子は、テープ起こし、校正、印刷を行っており、手間と経費がかさむが、限定した範囲しか配布ができていない。 ○博士論文提出予定者には公開で実施される「博士学位請求論文事前報告会」での報告を義務づけている。		学生が編集する論集『情報コミュニケーション学学際研究』については、予算と編集労力が大きい割に、それに見合った効果が広く得られていない。		学際研究の活動は従来通り続けるが、学生編集の冊子は発刊せずに、HP公開などの他の形での成果公表を行っていく。
研究科間等における国際的な教育交流の内容とその効果（学部間協定、短期海外交流など）					
b ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）、専攻別に説明する。	○大学院間協定による交換留学生の派遣・受入れ 2014年度 ・ 成均館大学校（韓国）との研究科間協定締結 ○2015年度大学院学内GPプログラム ・ 成均館大学校との研究シンポジウム開催 6名参加（うち2名は理工学研究科の学生） ○研究科フォーラム ・ Wolfgang Seifert先生（ハイデルベルグ大学名誉教授）を招聘し、「ヨーロッパにおける丸山真男研究の状況」をテーマに講演会を実施した。研究科フォーラムは2009年度から継続して実施しており、本年度は学生教員を合わせ37人が参加した。	成均館大学校との研究シンポジウムは、発表参加の院生に大きな達成感や充実感が得られている。		海外大学との定期的な研究交流を通じての、院生の成長を願い、今後とも、可能なかぎり毎年の開催を続けていく。	

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か					
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<博士前期課程> 博士前期課程の授業は講義と演習を設置し、併用により行っている。このうち研究サポート演習では、外国文献講読・フィールドアプローチ・専門社会調査に関する授業を14科目開講しており、これらはシラバスで示している。 <博士後期課程> 博士後期課程は、指導教員による研究論文指導が中心となっている。研究論文指導及び情報コミュニケーション学学際研究それぞれ12単位ずつを必修としている。また、講義科目「学際研究」では指導教員以外の教員や外部招へい講師も参加するため、学位請求論文作成の一助につながっている。				
b ●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	教育課程の編成・実施方針にあるとおり、本研究科は学際研究を旨とするため、学生への研究指導も複数の教員が担当するよう副指導教員体制を確立している。 <博士前期課程> 演習科目では、指導教員と学生との個別指導が行われている。専門社会調査を履修し、所定の科目を修得することにより、専門社会調査士の資格申請も可能となる。 <博士後期課程> 博士後期課程は、指導教員による研究論文指導が中心となっており、「学際研究」では指導教員以外の教員や外部招へい講師も参加するため、学位請求論文作成の一助につながっている。また、その成果は冊子として刊行している。				
学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫					
c ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<博士前期課程> 履修指導は、毎年4月に新入生及び在学生に対してガイダンスを実施している。同ガイダンスでは、履修の手引き等を配付し、履修に関する注意事項について直接学生に対して説明している。「修士論文作成計画書」「研究計画中間報告書」の提出及び修士論文中間発表会についても案内している。 <博士後期課程> 履修指導は、毎年4月に新入生及び在学生に対してガイダンスを実施している。同ガイダンスでは、履修の手引き等を配付し、履修に関する注意事項について直接学生に対して説明している。博士後期課程2年に対しては「博士論文作成計画書」「研究計画中間報告書」、3年に対しては「博士学位請求予備登録票」「研究計画最終報告書」「博士論文執筆計画書」の提出及び博士学位請求論文事前報告会についても案内している。				

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(修士・博士課程) 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導						
d ◎研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること (修士・博士)。 【400字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<博士前期課程> 研究指導計画に基づく研究指導について、「修士学位取得のためのガイドライン」に基づき、指導教員の責任のもと、指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、修士学位請求論文を作成する。学生は指導教員の承認を得て、履修計画書を提出することになっており、指導教員の演習科目を通して、適切な研究指導を実施している。学生は希望があれば、指導教員の指導のもと、2名以内の副指導教員を選定することができ、ゆるやかな複数指導体制が成立している。学位論文については、「論文作成計画書」及び「研究計画中間報告書」を2年次の初めに提出することになっており、指導教員の確認が必須となっている。また、修士論文提出予定者は、当該年度に実施される公開形式の「修士論文中間報告会」において報告することを義務付けている。 <博士後期課程> 「修士学位取得のためのガイドライン」に基づき、指導教員の責任のもと、指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、修士学位請求論文を作成する。学生は、指導教員の承認を得て、履修計画書を提出することになっており、指導教員の演習科目を通して、適切な研究指導を実施している。また、博士論文提出予定者は、当該年度に公開形式の「修士学位請求論文事前報告会」を通して、指導教員のみならず、その他関係教員の指導を受けることができる。					
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか						
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	シラバスは、全研究科統一の様式により、授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明示している。なお、シラバスはWEB上で閲覧できるようになっている。					
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	シラバスは「研究科長」の責任体制のもと、各教員に全学統一書式での執筆を依頼している。 学生の要望等を話し合う「院生協議会との懇談会」の結果は執行部で検討がなされた後、研究科委員会にフィードバックされるが、必ずしも、毎年度、このシラバスの内容についてが取り上げられているわけではない。					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか						
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧に明記している。 ② 論文審査については、課程別に次のとおりである。 <博士前期課程> 論文審査については、情報コミュニケーション研究科内規「修士学位請求論文の審査について」に則り、主査1名のほか副査2名で厳格に審査を行い、審査結果は研究科委員会にて報告し、学位授与を決定している。 <博士後期課程> 成績評価については、博士前期課程と同じである。博士論文執筆以前の準備報告会を開催し、多くの教員が参加し、厳しく指導している。修士学位請求論文の評価については、主査1名、副査2名以上により「情報コミュニケーション研究科修士学位請求論文の受理及び審査についての内規」に従って審査を行ない、研究科委員会において出席委員全員による合否判定の投票を行なう。					
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○FD懇話会(参加者:研究指導を行う全教員) 目的:学位論文の質的向上,学位取得促進 内容:指導する全学生の研究進捗状況について,その指導教員が報告し,指導方針や研究の方向性などの検討 FD懇話会での検討内容は,博士前期課程院生に関しては,修士論文中間発表会,博士後期課程の院生については,博士論文事前報告会において,院生指導の際に生かされている。	FD懇話会では,指導対象の院生が抱えている勉学上の問題や生活上の問題を披露し合い,他の教員からの意見を募ることで,さまざまな指導上の有益な助言が得られている。		FD懇話会の開催のタイミングについて,院生の研究発表の直後に行うのがよいのではという意見があり,そうした工夫を重ねながら今後とも,毎年続けていく。		
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織,権限,手続プロセスを適切に機能させ,改善につなげているか。 【約400字】	教育内容・方法等の教育体制全般について検討を行うことができるよう,2012年度より毎年将来構想委員会を設置してきている。検討された事項は研究科委員会に上程され,審議される体制が整っている。2015年度においては,教育方法の体制は万全であるとの判断をした。					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4.成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか						
b ●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約400字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。	<博士前期課程> 修士論文の最終指導に向けて、修士2年次の5月末に「修士論文中間報告会」を開催し、さまざまな分野からの率直な批判を受けることを義務としている。本研究科の特色である学際性を高めた修士論文の作成に寄与している。 学位授与率は86.7%であり、おおよそ修業年限での学位取得ができている。修了生の就職先は、サービス・小売業、情報産業、教育・研究分野と、研究科の目標にかなった実績が得られている。とくに日本企業に就職する留学生が目立ち、研究科での勉学が活かされていると言える。		前期課程の学位授与率は相応の高さになっているが、後期課程の授与率がきわめて低い。		学際研究を推進している研究科であるため、研究の基盤を複数の領域にもっていないと、博士論文がなかなかまとめられず、それに向けての研究活動に苦勞する院生が多い。副指導教員制度も活用しながら多角的に粘り強い指導を重ねていく。	研究科開設後10年を迎えるにあたって、研究科の活動実績を広く公開することにより、後期課程の魅力を外にアピールする。そして、複数の学問領域に足場を築ける優秀な修士学位取得済み者を、後期課程院生に確保していく。
●学位授与率、修業年限内卒業率の状況 ●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。	<博士後期課程> 博士論文提出予定者は当該年度に「博士学位請求論文事前報告会」での報告を義務づけている。学位論文とは別に、研究成果を発表できる刊行物として、「情報コミュニケーション学研究論集」を発行している。また、博士後期課程の「学際研究」では成果物として、博士後期課程学生が編集する論集『情報コミュニケーション学学際研究』として年1回刊行している。学位授与率は7.7%となっており、2015年度には、2人目の本研究科博士学位取得者が誕生した。					
c ●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか。 【約400字～600字】	本研究科博士前期課程修了者に対し、修士論文面接試問後に博士前期課程に関する「授業実施状況に係るアンケート調査」を実施しており、回収率は100%である。2015年度においては、授業内容及び研究指導に満足したかについて、「大いにそう思う」「そう思う」を合わせると、すべての修了者が満足であると回答している。	前期課程修了者の満足度が高いと評価できる。		今後とも引き続き、多様な院生の学びを支援する体制を維持していく。		

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4.成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか					
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎(研究科)学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	<p>修了要件を大学院便覧、大学院シラバス及びWEBサイトに明示し、論文審査基準は「学位取得のためのガイドライン」に「論文に求める条件」として定め、これをWEBサイトで学生へ明示している。</p> <p><博士前期課程> 学位論文に求められる審査基準については、「修士学位取得のためのガイドライン」を定め、「修士論文に求められる要件」で明示している。修了に必要な単位数は、コースワーク24単位、リサーチワーク8単位の合計32単位以上の修得を要件とし、指導教員による研究を受け、修士論文を作成することで学位を授与する。</p> <p><博士後期課程> 学位論文に求められる審査基準については、「博士学位取得のためのガイドライン」に定め、「博士論文に求められる要件」で明示している。修了に必要な単位数は24単位であり、さらに所定の研究指導を受けたものが学位請求論文を提出し、学位審査に合格することで学位を授与する。</p>				
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p><博士前期課程> 修了に必要な単位数は、コースワーク24単位、リサーチワーク8単位の32単位以上を要件とし、研究指導を受け、修士論文を作成することで学位を授与する。修士論文の審査は、学位規程に基づき、主査1名・副査2名の3名による審査委員による審査・口頭試問により行われ、研究科委員会の審議のもと学位が授与されている。</p> <p><博士後期課程> 修了に必要な単位数は24単位であり、さらに所定の研究指導を受けたものが学位請求論文を提出し、学位審査に合格することで学位を授与する。博士論文の提出は、指導教員の承認を得て提出することになっている。審査は、学位規程に基づき、主査1名・副査2名の3名による審査委員による審査・口頭試問により行われ、一定の開示期間ののち、研究科委員会で報告・審議され、学位が授与されている。審査は、「学位請求論文の取り扱いに関する内規」に基づき、審査委員会で審査されている。</p>				

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか（「AP」の全文記述は不要です）					
「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示					
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 情報コミュニケーション研究科の課程別に入学者の受入方針を定めている。なお、求める学生像として博士前期課程では3点、博士後期課程は2点定め、修得しておくべき知識等の内容・水準を博士前期課程では2点、博士後期課程は2点明示している。 ② 入学者の受入方針の公表についてWEBサイト、大学院便覧、履修の手引き、大学院ガイドブック及び大学院学生募集要項に掲載し、社会に幅広く公表することにより、受験生を含む社会に幅広く公表している。				
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか					
a ●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。（公正かつ適切に入学者選抜を行っているか）。 【約800字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。	<博士前期課程> 「学内選考入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）」「一般入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）」「外国人留学生入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）」「社会人特別入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）」及び「3年早期卒業予定者入学試験（Ⅰ期のみ）」を実施している。 <博士後期課程> 「一般入学試験」「外国人留学生入学試験」を実施している。博士後期課程においては、修士学位論文等、外国語試験、指導教員予定者と指導教員予定者が指名する2名の計3名による面接試験により公正な入学者選抜が行われている。				
(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか					
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性					
a ◎部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である。（修士・博士・専門職学位課程） 【約200字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。	※ 2016年5月1日現在の数値 <博士前期課程> 収容定員50名に対し、在籍学生数は29名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.58である。 <博士後期課程> 収容定員18名に対し、在籍学生数は17名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.94である。		博士前期課程の収容定員に対する在籍学生数比率が低いため、1.00に近づける必要がある。		進学相談会実施の継続や情報コミュニケーション学部への広報を行い、定員を充足しつつ志願者の選抜もできる研究科にしていく。

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応						
b ◎現状と対応状況 【約200字】	<p><課程共通></p> <p>定員未充足となっているため、志願者増加を見込み、研究科独自の進学相談会を年2回実施している（実施日：①6月12日（21名）、②11月13日（23名）。前年度の参加者は1回目が10名、2回目が18名と参加者数は増加傾向にあり、進学相談会の参加者が出願するなど、研究科にとって意義のある行事と位置付けている。</p>					
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか						
a ●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	<p>学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、入学者の受け入れ方針の検証を執行部で行い、その結果を研究科委員会において確認している。</p> <p>入学試験制度は、将来構想委員会で検討し、月1回開催の研究科委員会において審議している。また、「入学試験実施要領」についても月1回開催の研究科委員会において、前年度に見直しを行っている。最近行った改定としては、TOIEC®やTOEFL®の高得点者の英語入試の免除の導入が挙げられる。</p> <p>「大学における学びに関するアンケート」及び入学形態別の追跡調査については実施していない。</p>					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか					
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	修学支援に関する方針については、本研究科の「理念・目的」を踏まえ、「2015年度教育・研究に関する長期・中期計画書」における、「教育内容・方法・成果」の項目(2)履修・研究指導の方法により、(ア)指導教員と副指導教員の連携による指導、(イ)博士前期課程教育プログラム中間発表会の実施、(ウ)博士前期課程・後期課程を貫く教育・研究プログラムを方針として、学位論文を完成・提出させることを目的として定めている。この年度計画書は、研究科委員会において審議承認の手続きを行い教職員で共有している。				
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	修学支援に関しては、大学院担当教員全員出席の下、毎年春にFD談話会及び修士論文中間発表会を開催している。前者は、博士前期課程2年の修了予定者の指導教員が、学生が提出された修士論文作成計画書に基づき、他の教員に修士論文のテーマやオリジナリティを説明し情報共有を図っている。後者は、学生が修士論文の進捗を教員及び博士前後期の学生の前で報告を行い、参加者からのコメントを通じブラッシュアップがなされるような制度が設定されている。また、本研究科は学際研究を旨とするため、学生への指導も複数の教員が担当するよう副指導教員体制を確立している。 留籍者及び休・退学者については、各期末の段階で、院生の動向を把握している。指導教員が適宜面談を行い対応している。2015年度は、博士前期課程：留籍者2名、博士後期課程：留籍者8名、休学者1名、退学者3名、除籍者1名であった。 なお、大学院全研究科の外国人留学生に対して日本語教育をサポートすべく教育補助講師による日本語論文添削支援等の制度を設けている。 また、学内GPプログラムとして、2014年度より成均館大学校芸術学研究科と院生合同研究発表会を実施し、院生の国際的視野の滋養に努めている。				
	障がいのある学生が入学した場合は、全学的な制度で対応をしている。				
	外国人留学生の学業や日本語教育への支援については、全学的な制度で対応をしている。また、大学院では、日本語論文作成のためのサポート支援として、「日本語論文指導講座」の開講および個別の「日本語論文添削指導」を行っている。				
	2016年3月28日に研究科執行部と院生協議会で懇談会を実施し、院生研究室の環境改善について要望をもらい意見交換を行った。				

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(2)進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。						
a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	進路支援に関する方針については、「学長方針」に従い、「2015年度教育・研究に関する長期・中期計画書」における、「6学生支援」の項目により、(1)TA及びRAの奨励、(2)助手への育成について示している。この年度計画書は、研究科委員会において審議承認の手続きを行い教職員で共有している。 さらに助手に採用された博士後期課程の学生に対して、日本学術振興会特別研究員への応募を義務付け、アカデミックポスト獲得に向けた支援体制の強化をはかっている。					
b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	全学的な制度で対応をしている。	博士後期課程在籍者の多い本研究科の状況を鑑み、アカデミックポジションに就くことを目標にした進路指導は適切な試みであり、学生への意識喚起に役立っている。	左記の一方で、博士前期課程在籍者の多くが中国からの留学生であり、かつそのうちの多くが日本での就職を希望することから(2015年度は10人の在籍者のうち4人が日本で就職)、今後は彼らを対象にした進路指導も必要であると考え。	今後は増え続ける中国を含めた日本での就職を希望する留学生のキャリア支援を念頭に、講演会の内容や支援体制を充実させる。	博士前期課程と博士後期課程、企業への就職と研究職への就職、それぞれの異なるニーズにこたえる内容の講演会等を企画する。	
	2015年度は、博士後期課程在籍者及び博士後期課程への進学を考える博士前期課程の学生を対象に、本学情報コミュニケーション学部に着任した専任教員と本研究科初の博士学位取得者で他大の専任教員として就職した修了生の2名を招聘し、「アカデミックな世界に就職することとは」をテーマに就職キャリア支援講演会を開催した。					

2015年度 情報コミュニケーション研究科 自己点検・評価報告書

基準10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的 に実施し、公表していること。 【約400字】	本研究科における自己点検・評価は、情報コミュニケーション研究科自己点検・評価委員会を設置して、年2回、検証及び見直しを行うこととしている。本委員会は執行部（3名）で編成し、毎年度、自己点検・評価報告書を作成している。 2014年度自己点検・評価報告書は明治大学ホームページで公表した。 また、修士論文面接日に博士前期課程修了予定者を対象に、授業実施状況に係るアンケートを実施している。		満足度が高いというアンケート結果ではあったが、外国人留学生向けの論文作成指導の充実が求められる。		これに関しては、全学的な対応をお願いしたい。	
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか						
a ●内部質保証の方針と手 続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさ どる諸組織（評価結果 を改善）を整備してい ること 【800字～1000字程 度】	本研究科の内部質保証の基本方針は、「自己点検・評価委員会」を責任主体とし、同委員会は評価結果及び改善方策を研究科長及び大学院長に答申するものとしている。自己点検・評価委員会による改善策を参考にした研究科長の決定した方針は、教育・研究に関する長期・中期計画書（9頁）「10内部質保証」に反映させている。自己点検・評価の結果は、カリキュラム検討委員会等でのカリキュラム改善や教育研究組織などの改善に反映させることとしている。 自己点検・評価委員会は、執行部で編成し、カリキュラムや担当教員を含む本研究科の将来全体にわたる問題については、2012年度に設置した将来構想委員会において見直し検討を行っている。 自己点検・評価報告書については全学委員会に提出し、全学委員からのコメントをフィードバックしている。また全学的にとりまとめた報告書については、理事長のもとに組織される評価委員会で評価され、その評価結果を、次年度の年度計画に反映させている。					
●自己点検・評価の結果が 改革・改善につながってい ること ●文部科学省や認証評価 機関からの指摘事項に対 応していること	「収容定員の確保」が提言。 2016年4月の博士前期課程 入学者17名は、定員には達 していないものの、2015 年4月の10名と比べると7 割増になり、改善が見ら れている。 博士後期課程は収容定員に おける在籍者数比率をみ ると、94%となっている ことから、喫緊に改善を 要する値ではない。しかし ながら、直近の3年で2回 、入学者数が定員を下回 り、志願者及び進学者数 の確保と留籍者による在 籍者数比率の高さが課題 となっている。					
●学外者の意見を取り入 れていること	学外者の意見について、 2015年度は取り入れて いない。					